―わが国唯一の橋の専門新聞―
橋梁新聞
SINCE1973

コンクリート構造物の高耐久化に貢献します
ステンレス鉄筋コンクリートバー
SUSCON®
サスコン
愛知製鋼株式会社
ステンレス市場創出グループ
TEL：052-603-9025
Mail：stainless@he.aichi-steel.co.jp

試験対象選定　次世代インフラロボ

うき・剥離検出可能

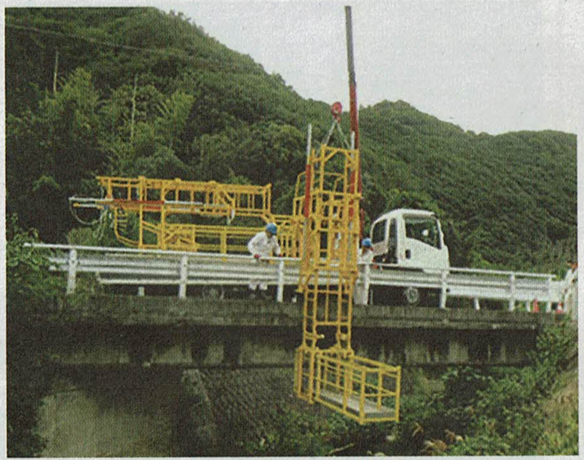
国土交通省は10月20日、次世代社会インフラ用ロボット技術の公募結果、「コンクリート構造物のうき・剥離を検出可能な非破壊検査技術」試験対象技術5技術を選定した。

今年中に九州地整の直轄現場で試験・調査し、従来技術（打音検査）との比較・評価などを行う。

結果は九州地整新技術評価会議で審査の上、九州地方整備局　新技術関係（NETIS）」で公表する予定。

選定された5技術は以下の通り。〔〕内は共同開発者名。

オンガエンジニアリングのコンクリート構造物変形部検知システム「BLUE DOCTOR」、ジビル調査設計〔インテス〕の橋梁点検支援ロボット、新日本非破壊検査〔名古屋大学大学院・九州工業大学・福岡県工業技術センター機械電子研究所・北九州工業高等専門学校〕の近接目視・打音検査等を用いた飛行ロボットによる点検システム、日本電気のポール打検機、ネクスコ東日本エンジニアリング〔クワキ・シビル〕の回転式打音診断システム。いずれもNETIS番号申請中。



検査路の設置状況

阪南市で移動式検査路の実証実験

インフラメンテナンス国民会議「近畿本部」

10月12日、阪南市が管理する阪南市桑畑地先（2号橋）にて、地方自治体から23人、民間企業など36人、事務局など19人の合計78人が参加し、狭幅員橋梁に用いる移動式検査路「ブリッジハンガー」の適用性や適用条件などを確認する実証実験が行われた。

同実証実験は、7月28日に開催されたインフラメンテナンス国民会議の「近畿本部フォーラム第1回ピッチイベント」でのプレゼンなどを経て、阪南市のニーズ（課題）とNME研究所のシーズ（技術）のマッチングが成立したもの。

今回想定された現場条件は、高所作業車の使用、足場の設置が困難。道路は通行止め不可（一時的・短時間の通行止めは可能）の橋梁。近接目視点検、打音検査を支援する技術、点検者の移動を支援する技術を確認するため一時通行止めし、検査路の設置に所要時間25分、設置後、通行規制を解除し一般車両の通行を確認、参加者が検査路に降り、作業性・安全性などを体感した。

一方、架空線や添加物などにより設置が困難な場合がある、斜橋の場合、橋台付近（端部）の近接目視が困難、フェイルセーフ機能など安全対策の充実が必要などの改善点が明らかとなった。

阪南市では、「本市の求めるニーズに対して、非常に有効な技術であると感じた。今回の実証実験で指摘のあった課題に対して、更なる改良を期待したい」とする一方、メンターの関西大学の坂野昌弘教授は、「市町村が抱える課題を一つずつ具体的に解決していくことが必要。まだまだニーズ（課題）は残されているので、これからも皆様のご協力をお願いしたい」とした。

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所が建設を進めている北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路の八代川橋は現在、下部工が進捗中だ。

北近畿豊岡自動車道は兵庫県丹波市の舞鶴若狭自動車道、春日IC・JCT～朝来市の和田山IC・JCTで播但連絡道路と連絡し、豊岡北ICに至る総延長約70キロ。うち、日高豊岡南道路は豊岡市内6・1キロの部分。南側に続く八鹿日高道路9・7キロは今年3月に開通を果たした。

八代川橋は豊岡市日高町山本地先～竹貫地先に架かる266・5メートル、幅員11・15メートル（日高北ICランプ車線部に拡幅有）の鋼5径間連続非合成鈑桁橋。鋼重は1254トン。

下部工形式は箱式橋台2基、壁式橋脚2基、張出式橋脚2基で、現在、A2橋台、P1橋脚の施工を行ってい

NEXCO

準天頂衛星

NEXCO東

月中旬に1本が